

特徴・強みと課題

目的 他の市町村と比べた、特徴・強みや課題と思われる指標を明らかにすることを目的に比較分析をしました。

方法 JAGES2022年度調査では、同じ方法（調査票、郵送回収、集計方法）で全国75市町村の要介護認定を受けていない65歳以上を対象に健康状態や社会参加状況などを比較しました。

結果 75市町村と比較して見えてきた強みと課題は以下の通りです。

1. 強み指標

表3 75市町村と比較した特徴・強みの指標

指標名	今回	順位	前回	改善状況	回答者数	平均値	最小値	最大値
物忘れが多い者の割合	36.2	2	36.5	0.3	3,085	40.0	33.6	51.4
ポジティブ感情(5項目以上)がある者の割合	50.1	2	48.8	-1.3	2,839	45.0	37.4	51.5
収入のある仕事への参加者(月1回以上)割合	46.3	2	45.7	-0.6	2,685	32.7	24.4	46.8
就労していない者の割合	44.8	3	55.5	10.7	2,710	61.9	41.9	71.3
社会的役割低下者割合	22.5	5	18.5	-4.0	3,116	31.5	18.1	38.4
笑う者の割合	94.0	8	94.3	0.3	3,062	92.0	89.6	95.1
通いの場参加者(月1回以上)割合	15.6	8	20.7	5.1	2,985	9.6	1.5	19.8
友人知人と会う頻度が高い(月1回以上)者の割合	75.0	9	75.6	0.6	3,060	67.2	57.1	80.3

- 「物忘れが多い者の割合」「ポジティブ感情がある者の割合」「収入のある仕事への参加者割合」では75市町村中2位でした。その他にも「笑う者の割合」「友人知人と会う頻度」「通いの場参加者」なども上位に位置し、強み指標となっていました。

2. 課題指標

表4 75市町村と比較した課題指標

指標名	今回	順位	前回	改善状況	回答者数	平均値	最小値	最大値
運動機能低下者割合(基本チェックリスト)	12.1	69	10.9	-1.2	3,118	8.8	5.3	14.8
独居者割合	19.4	67	18.6	-0.8	3,078	16.0	7.7	34.6
知的能動性低下者割合	18.9	66	16.5	-2.4	3,123	14.1	9.7	26.3
1年間の転倒あり割合	31.8	66	30.9	-0.9	3,108	26.7	23.1	38.8
手段的(看病や世話)サポート受領者割合	93.2	65	94.6	1.4	3,108	94.3	91.9	97.1
商店・施設・移動販売が徒歩圏内にある者の割合	50.3	64	59.8	9.5	1,464	74.6	22.1	94.3
家からの徒歩圏内に坂や段差など、歩くのが大変なところがある者の割合	62.5	62	-	-	1,469	47.4	17.0	80.0
公園や歩道が徒歩圏内にある者の割合	55.7	61	56.0	0.3	1,449	73.5	45.1	88.7
低所得者割合(等価所得199万円以下)	62.0	60	59.9	-2.1	2,670	50.8	38.6	70.1

- 健康関連指標では「運動機能低下者割合」「知的能動性低下者割合」「転倒あり割合」などが課題指標でした。特に「運動機能低下者割合」「知的能動性低下者割合」は2019年よりも増加（悪化）していました。
- 交流関連や近隣環境の指標では「手段的(看病や世話)サポート受領者割合」「商店・施設・移動販売が徒歩圏内にある者の割合」「徒歩圏内に歩くのが大変なところがある者の割合」「公園や歩道が徒歩圏内にある者の割合」が課題指標でした。

特徴・強みや課題と関連する要因

目的

どのような要因が、特徴・強みあるいは課題と関連するのかを明らかにすることを目的に分析しました。

方法

JAGES2022年度調査に参加した75市町村のデータを用いて、指標との相関が強い要因を探りました。

結果

特徴・強みや課題と関連する要因は以下のようなものがありました。

1. 趣味の会や特技や経験を他者に伝える活動が多い地域は運動機能低下者が少ない

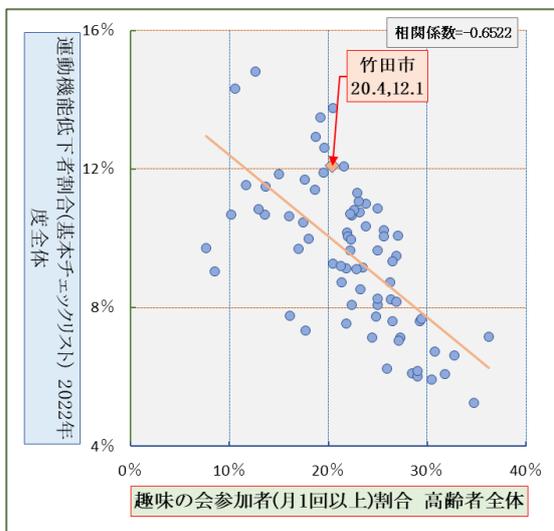


図1 趣味の会参加者割合と運動機能低下者割合との関連

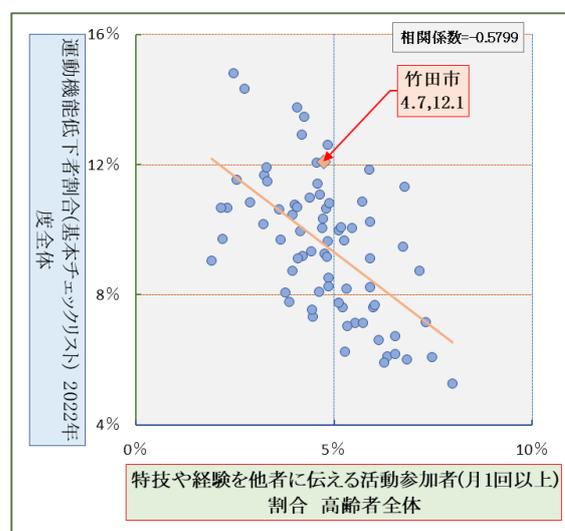


図2 特技や経験を他者に伝える活動参加者割合と運動機能低下者割合との関連

2. 30分以上歩く者が多い、趣味がある者が多い地域は運動機能低下者が少ない

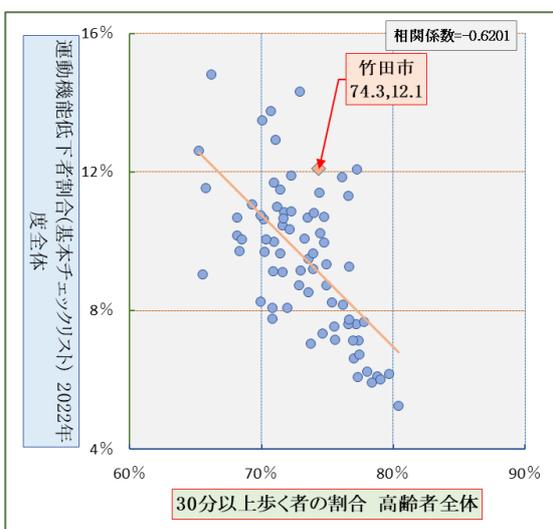


図3 30分以上歩く者の割合と運動機能低下者割合との関連

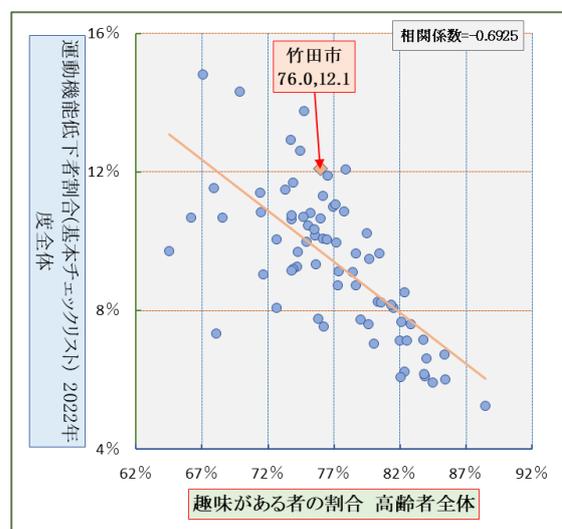


図4 趣味がある者の割合と運動機能低下者割合との関連

3. 社会参加が多い地域や、趣味がある者が多い地域は、知的能動性低下者割合が少ない

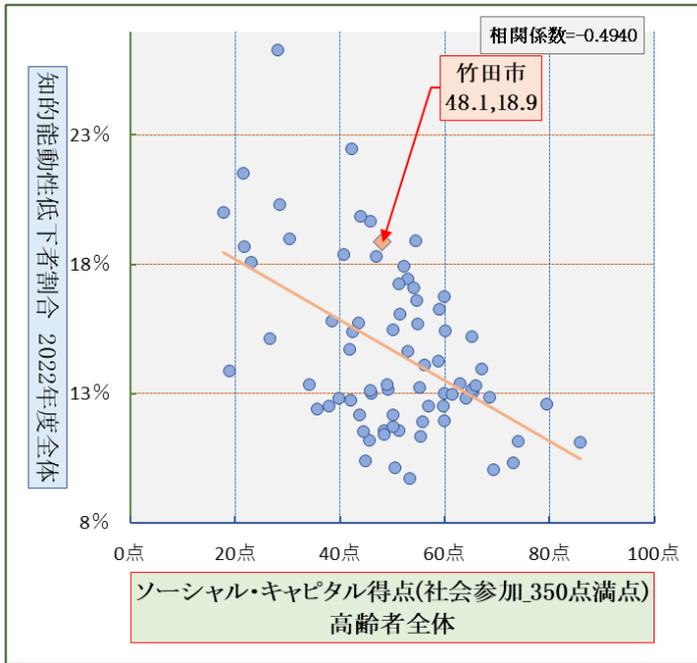


図5 ソーシャル・キャピタル得点(社会参加)と知的能動性低下者割合との関連

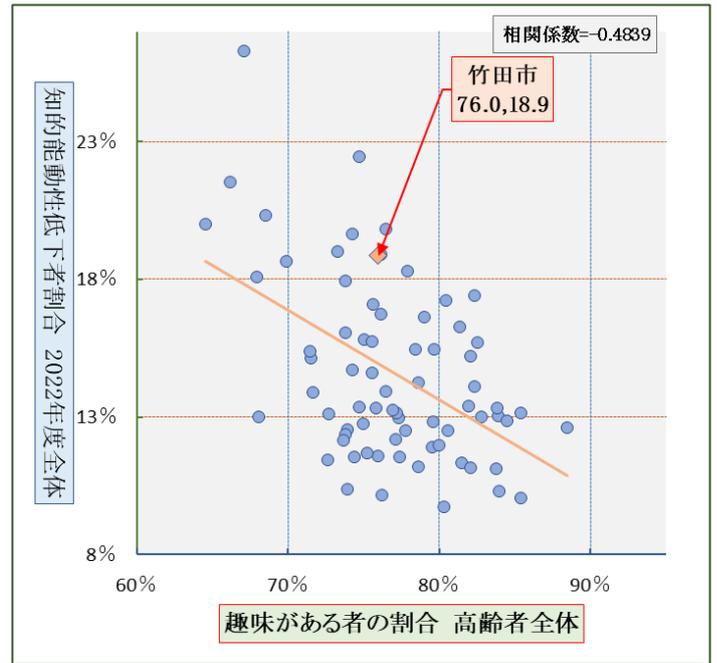


図6 趣味がある者の割合と知的能動性低下者割合との関連

4. 趣味の会が盛んな地域や、公園や歩道が徒歩圏内にある者が多い地域は、転倒あり割合が少ない

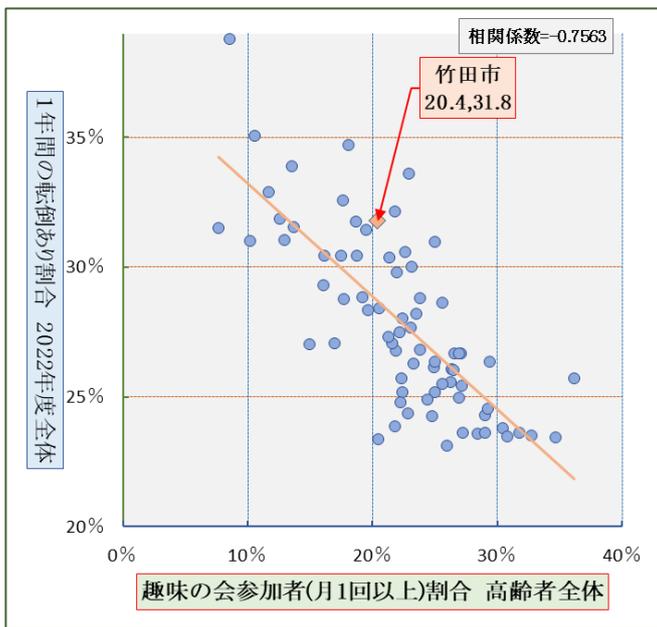


図7 趣味の会参加者割合と転倒あり割合との関連

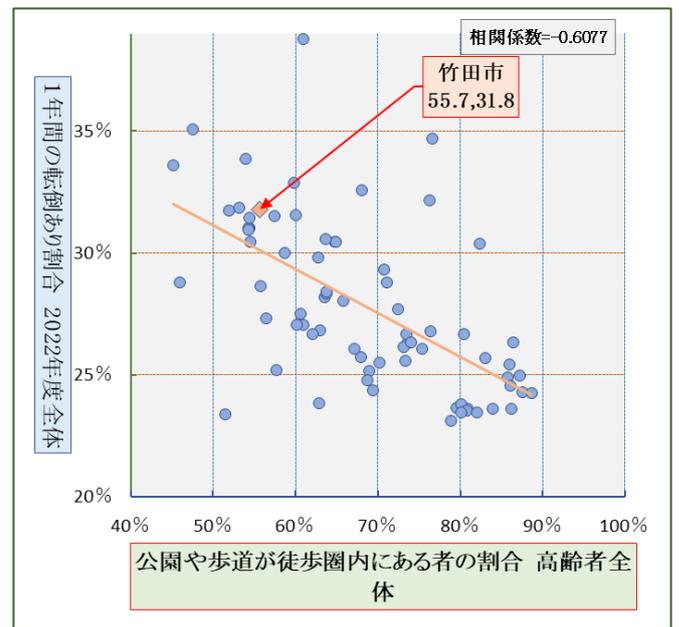


図8 公園や歩道が徒歩圏内にある者の割合と転倒あり割合との関連

- 竹田市の課題指標である「運動機能低下者割合」「知的能動性低下者割合」「転倒あり割合」と関連のある指標の検討を行いました。
- その結果、社会参加が3種類の指標と関連があることがわかりました。また、趣味を持つことや近隣環境も運動機能低下や転倒と関連があることがわかりました。

市町村内比較から探る重点対象地域

目的

課題だとわかった指標について、小地域のうち、良い地域と改善の余地が大きい重点対象地域を明らかにすることを目的としました。

方法

自治体内小地域別データを用いて、比較しました。

結果

自治体内で、良い地域と改善の余地が大きな地域を比較評価した結果は以下の通りです。

1. 運動機能低下者割合の小地域比較

- 「運動機能低下者割合」には、9.6～19.0%の小地域間格差がありました。
- 重点対象地域は、嬬岳地区、宮城地区、直入地区でした。
- 「運動機能低下者割合」が少ない明治地区、荻地区、竹田地区、久住地区などでなぜ運動機能低下者が少ないのか検討することで手がかりが得られるかもしれません。

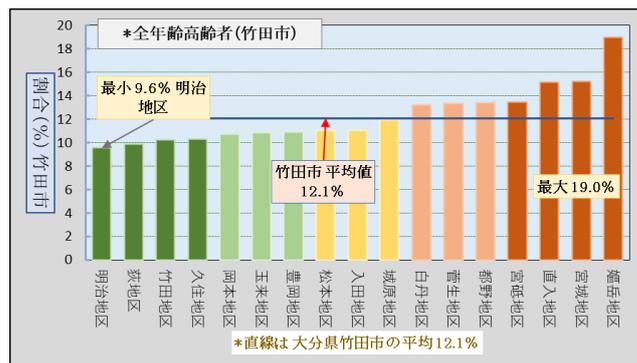


図9 運動機能低下者割合の小地域比較

2. 知的能動性低下者割合の小地域比較

- 「知的能動性低下者割合」は、13.4～22.4%の小地域間格差がありました。
- 重点対象地域は、白丹地区、菅生地区、直入地区、嬬岳地区でした。
- 「知的能動性低下者割合」が少ない岡本地区、竹田地区、松本地区などでなぜ知的能動性低下者が少ないのか検討することで手がかりが得られるかもしれません。

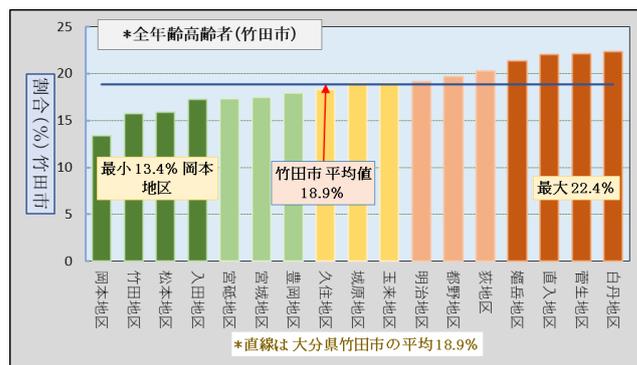


図10 知的能動性低下者割合の小地域比較

3. 転倒あり割合の小地域比較の小地域比較

- 「転倒あり割合」は、26.3～38.0%の小地域間格差がありました。
- 重点対象地域は、城原地区、直入地区、都野地区、菅生地区でした。
- 「転倒あり割合」が少ない玉来地区、竹田地区、豊岡地区などでなぜ転倒あり割合が少ないのか検討することで手がかりが得られるかもしれません。

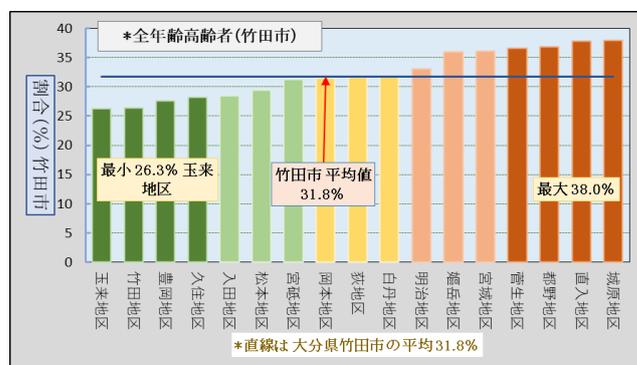


図11 転倒あり割合の小地域比較

- 竹田市の課題指標である「運動機能低下者割合」「知的能動性低下者割合」「転倒あり割合」の3指標に関する重点対象地域を確認しました。
- 3指標全てにおいて重点対象地域であったのは「直入地区」、複数で重点対象地域となったのは「嬬岳地区」「菅生地区」でした。

市町村内比較から探る改善の手がかり

目的

多市町村間比較と相関分析で、課題であるとわかった指標と高い相関を示した社会参加・交流などの指標（p3,4参照）について、市町村内の小地域のうち、改善の余地が大きな地域と良い地域とを比較し、手がかりを得ることを目的としました。

方法

市町村内小地域別データを用いて、社会参加・交流指標について比較しました。

結果

市町村内で、重点支援すべき、改善の余地が大きな地域と、手がかりが得られそうな良い地域は、以下の通りです。

1. 「趣味の会参加者割合」「特技や経験を他者に伝える活動」の重点対象地域と手がかりが得られそうな地域は？

- 「趣味の会参加者割合」は5.7%～25.4%の小地域格差がありました。重点対象地域は姫岳地区、菅生地区、宮城地区、直入地区でした。
- 「趣味の会参加者割合」の経年変化を確認したところ、姫岳地区、直入地区は2019年の参加も少なく、また3年間で参加者割合も減少していました。同じく重点対象地域であった直入地区は経年変化では「趣味の会参加者割合」が維持できていました。減少の大きい地域と参加割合が維持できた地域の違いを検討することで、「趣味の会参加者割合」の増加の手がかりになるかもしれません。
- 「特技や経験を他者に伝える活動の参加者割合」は1.9%～9.3%の小地域格差がありました。重点対象地域は姫岳地区、入田地区、直入地区、宮城地区でした。
- 経年変化を確認したところ、姫岳地区は参加者割合が増加しており、更なる増加が望まれます。一方で2022年で参加者の多かった豊岡地区は2019年よりも大きく参加者割合が減少していました。減少の要因を探る必要があると考えられます。要因を探ることで、竹田市全体の特技や経験を他者に伝える活動の参加者割合増加の手がかりとなるかもしれません。

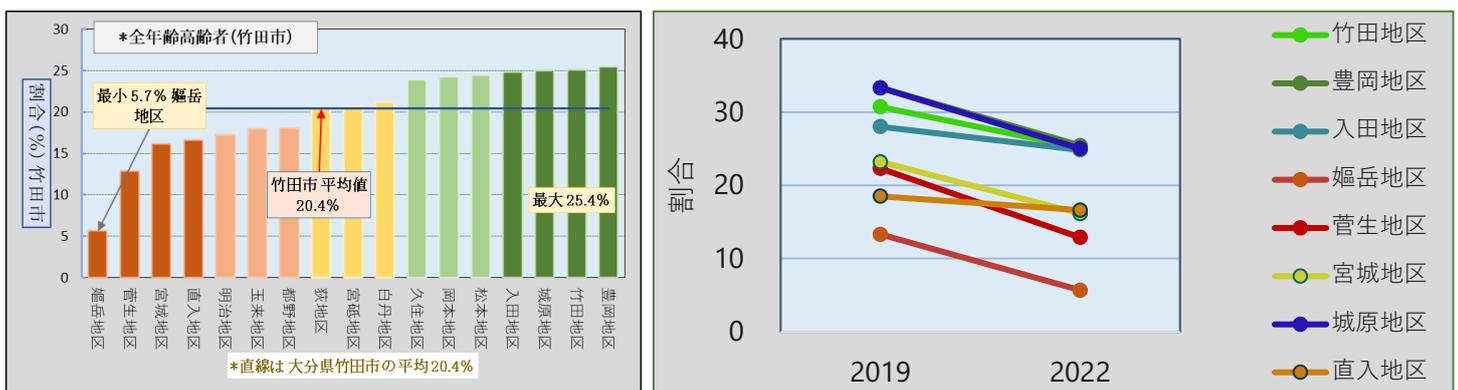


図 1 2 趣味の会参加者割合の小地域比較（左）と経年変化（右）



図 1 3 特技や経験を他者に伝える活動の小地域比較（左）と経年変化（右）

* 経年変化は参加割合の少ない、または多い7地域のみ表示した

2. グループ活動への参加意向がある者は平均5割以上

- 今回の調査で竹田市の「グループ活動への参加意向がある者の割合」より、5割以上が社会参加していてもよいと回答したことがわかりました。
- 「グループ活動（企画・運営）への参加意向がある者の割合」から、4割がボランティアをしてもよいと回答したことがわかりました。
- p6で重点対象地域であるとわかった姫岳地区では、企画・運営への参加意向者が竹田市内の小地域17地域中2番目に多く、企画・運営、つまりボランティアとしての参加者を増やす良い機会であると考えられます。直入地区においてもグループ活動への参加意向者は5割を超えていました。
- まずは、p6で示した手がかりとなる地域の社会参加者の増加や減少要因を探りヒントを得た上で、参加者を募集したり、新たな社会参加の取り組みを作り出したりすることで、社会参加者の増加につながるかもしれません。

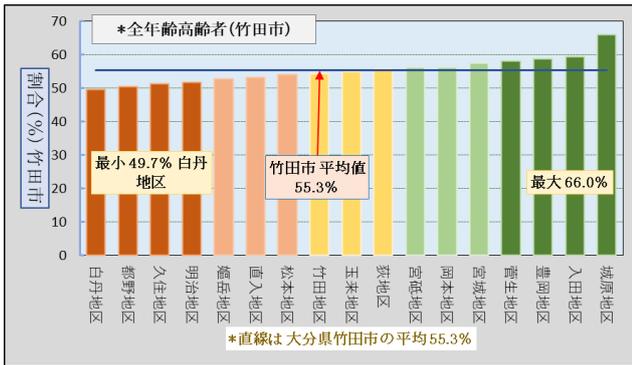


図14 グループ活動への参加意向者割合の小地域比較

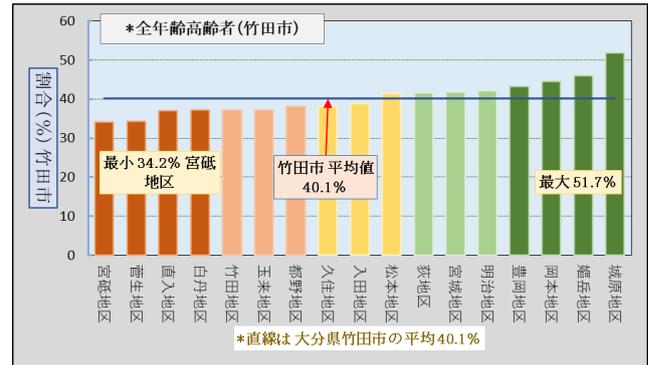


図15 グループ活動（企画・運営）への参加意向者割合の小地域比較

3. 30分以上歩く者の割合は現状の要因検討で更なる増加が見込まれる

- 30分以上歩く者の割合は64.8%～81.4%の小地域格差がありました。
- 30分以上歩く者の割合が少ない小地域は玉来地区、菅生地区、直入地区、都野地区でした。ただ経年変化を確認すると2019年の割合を維持または増加できていました。特に姫岳地区は他の小地域と比較して明らかに増加が大きく、大変素晴らしい変化だと考えられます。
- 30分以上歩く者が増えた要因を検討することで、今後の手がかりとなると考えられます。ただし、2019年と2022年では調査時期が約1か月異なります（2019年：11月25日～12月16日、2022年：11月7～11月28）。季節の違いにより歩く者の割合に影響が生じたかも併せて考慮が必要かもしれません。

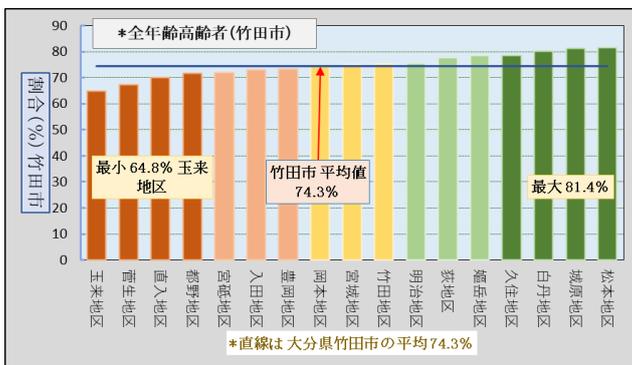


図16 30分以上歩く者の割合の小地域比較（左）と経年変化（右）

* 経年変化は割合の少ない、または多い9地域のみ表示した

- 竹田市の課題指標である3指標と関連のある社会参加のうち、「趣味の会参加者割合」と「特技や経験を他者に伝える活動」の重点対象地域と手がかりの得られそうな小地域を確認しました。2022年で社会参加者の少ない地域でも、グループ活動への参加意向は約5割もあることがわかりました。手がかり地域での要因を検討し、社会参加者の増加が期待されます。
- 30分以上歩く者の割合は2019年の割合よりも増加している小地域が多く、大変素晴らしい変化だと考えられます。今後ともこのペースを維持することが期待されます。

竹田市の地域診断 概要 2022

JAGES「健康とくらしの調査2022」に参加した75市町村を比較評価した結果、以下のことがわかりました。

1 市町村間比較から見る特徴・強みと課題

- 「物忘れが多い者の割合」「ポジティブ感情がある者の割合」「収入のある仕事への参加者割合」では75市町村中2位でした。その他にも「笑う者の割合」「友人知人と会う頻度」「通いの場参加者」なども上位に位置し、強み指標となっていました。
- 健康関連指標では「運動機能低下者割合」「知的能動性低下者割合」「転倒あり割合」などが課題指標でした。特に「運動機能低下者割合」「知的能動性低下者割合」は2019年よりも増加（悪化）していました。

2 特徴・強みや課題と関連する要因

- 竹田市の課題指標である「運動機能低下者割合」「知的能動性低下者割合」「転倒あり割合」と関連のある指標の検討を行いました。
- その結果、社会参加が3種類の指標と関連があることがわかりました。また、趣味を持つことや近隣環境も運動機能低下や転倒と関連があることがわかりました。

3 市町村内比較から探る重点対象地域

- 竹田市の課題指標である「運動機能低下者割合」「知的能動性低下者割合」「転倒あり割合」の3指標に関する重点対象地域を確認しました。
- 3種類の課題指標それぞれにおいて、重点対象地域が異なっていました。
- 3指標全てにおいて重点対象地域であったのは「直入地区」、2指標において重点対象地域となったのは「姫岳地区」「菅生地区」でした。

4 市町村内比較から探る重点対象地域改善の手がかり

- 竹田市の課題指標である3指標と関連のある社会参加のうち、趣味の会参加者割合と特技や経験を他者に伝える活動の重点対象地域と手がかりの得られそうな小地域を確認しました。「3. 市町村内比較から探る重点対象地域」での検討からわかった重点対象地域の「直入地区」「姫岳地区」は趣味の会参加者割合も特技や経験を他者に伝える活動も少ないことがわかりました。ただし、両地区ともにグループ活動への参加意向は約5割もあり、更に「姫岳地区」は企画・運営への参加意向が高いことがわかりました。手がかり地域での要因を検討し、社会参加者の増加が期待されます。
- 30分以上歩く者の割合は2019年の割合よりも増加している小地域が多く、大変素晴らしい変化だと考えられます。今後ともこのペースを維持、または、増やしていくことで、竹田市の課題指標であった「運動機能低下者割合」の減少につなげることが期待されます。